

令和5年子供に関する定点調査検討会議（第4回）

議事要旨

日時：令和5年8月1日（火）9:00～11:00

場所：都庁第二本庁舎10階一般会議室203

※オンサイト及びオンライン（Teams）の併用

参加者：○オンサイト出席

西田 淳志委員・森田 明美委員・石賀 裕委員・小平 房代委員・田谷 拡之委員

○オンライン出席

池本 美香委員・伊藤 美奈子委員・松原 康雄委員、渡辺 由美子委員

【議事】

- (1) 調査結果
- (2) 分析（案）
- (3) 最終報告に向けた改善点
- (4) 次年度調査に向けた改善点

【議事録】

(1) 調査結果

- ・ 特に意見無し

(2) 分析（案）

<主な意見等>

○クロス集計の方法について（全般的な事項）

- ・ 資料にあるとおり、幸福度を高・中・低で区分した方が行政の報告書として分かりやすいが、統計的には連続量でみた方がよい。
- ・ 今回の分析では、幸福度と様々な要素との因果の推論は出来ない。幸福度を従属変数として多変量解析を行うとよい。
- ・ 夢を叶えられるかなどに関する男女の違いの経年的変化や国際比較も重要。

○個別のクロス集計に関して

- ・ 「幸福度と相談できる人の数」（19ページ）には、極めて強い関連性がある。「困ったときの相談相手の数」は幸福度の把握において重要。
- ・ 内閣府の調査で、居場所の数と自己肯定感の分析をしていた。定点調査でも分析するとよい。
- ・ 保護者に対する質問（26ページ）で、子育てしやすいと回答した割合がどの学年でも高い。今後、子供や子育て世代が東京に魅力を感じていることを都民に発信できるとよい。

(3) 最終報告に向けた改善点

- ・ 特に意見無し

(4) 次年度調査に向けた改善点

<主な意見等>

○回答率を高める取組

- ・ 回答する意義が分かるメッセージ等を調査票と一緒に送付してもよい。
- ・ 回答者への特典付与は重要だが、現実的な方法かも含めて検討すべき。今回の調査で回収率の低かった高校生は配布数自体を増やすことも選択肢。
- ・ 調査結果をホームページで伝えたり次回調査時に同封するなど、フィードバックが大切。
- ・ 封筒に QR コードを添付するなど、インターネット回答を促す方法も検討してほしい。
- ・ 当事者である高校生に「どうしたら回答率を上げられるか」を相談してみるのもよい。

○次年度調査の調査項目

- ・ Chat GPT などの人工知能への生活依存度は定期的に把握していくことが大事。
- ・ 性の多様性への認識は大きな社会変革が起きている。回答者に負担のかからない設問となるよう配慮しつつ、意識の変化を調査してもよい。
- ・ 1つの選択肢に8割以上といった回答が集中した設問については、「なぜそうなのか、どこを充実させるともっと良くなるか」など、深掘りすることも検討してよい。

以上